

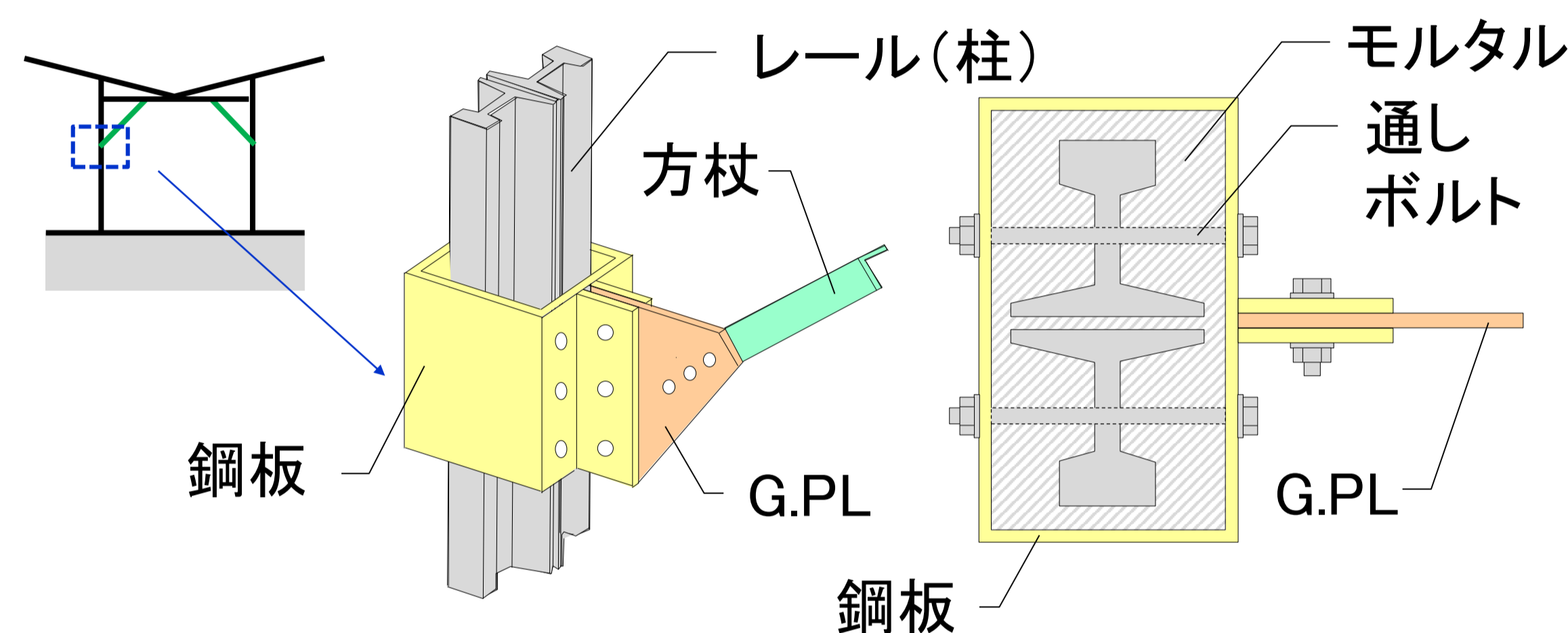
「レールピタット」の開発

導入予定あり!

背景と目的

古レールを用いた旅客上家の耐震補強工事において方杖を設置する際、鋼板巻き・モルタル充填・通しボルト等が必要となる従来工法では、施工手間によるコスト増や工期の長期化が課題となっている。そこで、鋳鉄を用いた無溶接かつ乾式(モルタルなし)の方杖取付金物「レールピタット」を開発した。

開発前の問題点



【従来工法の問題点】

- モルタル充填、モルタル受け型枠の製作等の施工手間
- 上述に伴うコスト増、工期の長期化

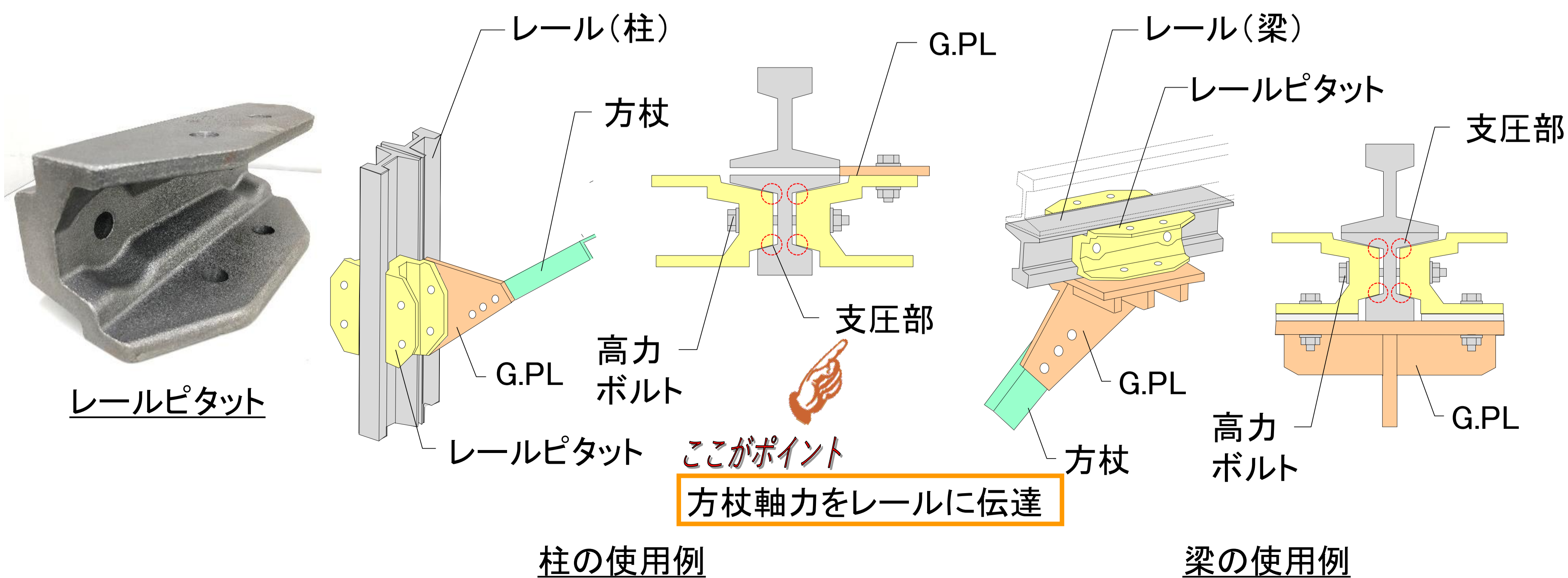
開発してよかった点

鋳鉄を用いた無溶接かつ乾式(モルタルなし)の方杖取付金物「レールピタット」により、以下のメリットが得られる。

- (1) 従来工法から50%のコストダウン
- (2) 工期短縮
- (3) 無溶接・乾式(高力ボルトによる支圧接合)
- (4) 柱梁の両方に使用可能

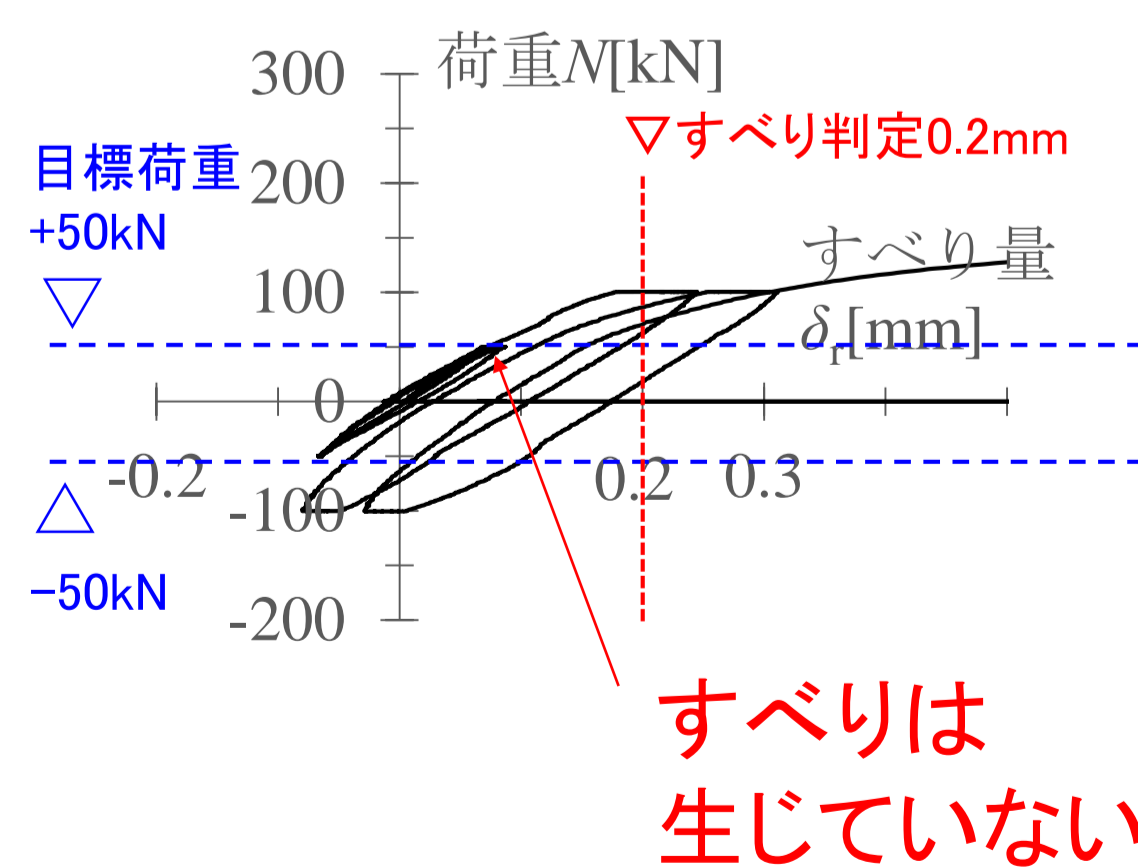
開発したもの

開発した「レールピタット」の概要



交番载荷実験(構造性能確認試験)の概要

【要求性能①】
レールピタット-レール間
(支圧部)がすべらない



【要求性能②】
レールピタットが弾性範囲

